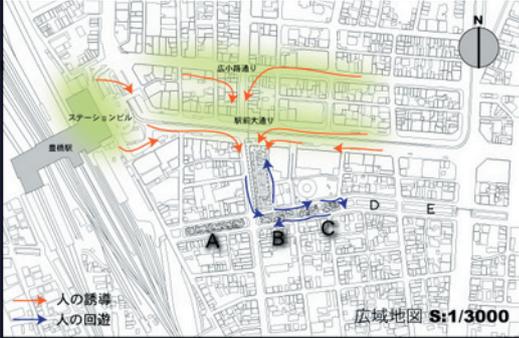


誘導一回遊

ー多様性のある空間ー 401711 金子雅彦

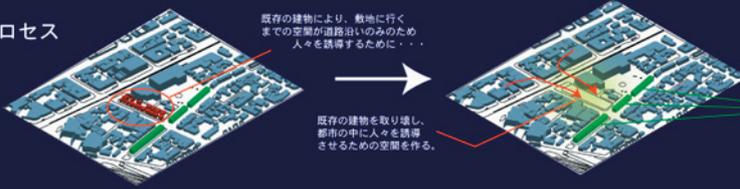
水上ビルが建設されて 40 年一かつて豊橋駅前の中心地だったこの水上ビル。1943年に豊橋駅として統合され、1987年に国鉄分割民営化により JR東海・名鉄の駅となり、さらに1998年には豊橋駅総合開発事業が完了。ステーションビルが建ち、ますますこの水上ビル方面に足を運ぶ人の数は減少傾向にあります。駅を訪れる人々はステーションビルの他に若者向けのshop、飲食店などが多く立ち並ぶ、広小路通り、駅前大通りに流されていくのが現状です。この計画はビル北側の開発ビル、名曹ビルにより、完全に市電も通過する駅前大通りから隔離され、裏空間となってしまうこの地区を、かつてのように活気ある地区、人々が集える地区を計画するという、水上ビル建て替え計画である。



計画地は第一段階目として、A,B,C地区とA,B,Cから広小路通りまでのつなぎの範囲とする。D,E地区は第二段階とし、まず第一段建て替え計画として、

- A棟は現状は事務所、賃貸アパート建て替えに当たっては入居者は基本的に現在の居住者と事務所の家族とする。
1Fは基本的にSOHO、オフィス、2F、3Fは賃貸アパートとする。
- B,C棟は現状は1Fに店舗、2階から上階は併用の住宅だが、ほとんどは入居者はいない。
B棟の北側はつなぎのコミュニティーパーク、C棟の北側は既存の公園の存在を考慮し、店舗併用住宅の形式ではなく、1Fにはshop、ファーストフード店、美容院、2Fはshopのほかに、カフェ、飲食店を配置し、所々”たまり空間”を設けた。
- B,C棟は建て替えではあるが、外観など利用できそうな店舗は、RCの躯体をその店舗だけ残し、新たに設計する建物に組み込まれる。

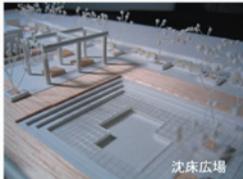
プロセス



既存の建物により、敷地に行くまでの空間が道路沿いのみのため人々を誘導するために...

既存の建物を取り壊し、都市の中に人々を誘導させるための空間を作る。

敷地の形状により建物の形態がある程度決定されてしまうため、空間、特に内部空間に多様性を持たせるためのスペースブロックの概念を用い設計を行う。



●所在地：愛知県豊橋市駅前大通り1丁目、2丁目

●用途区分：商業地域

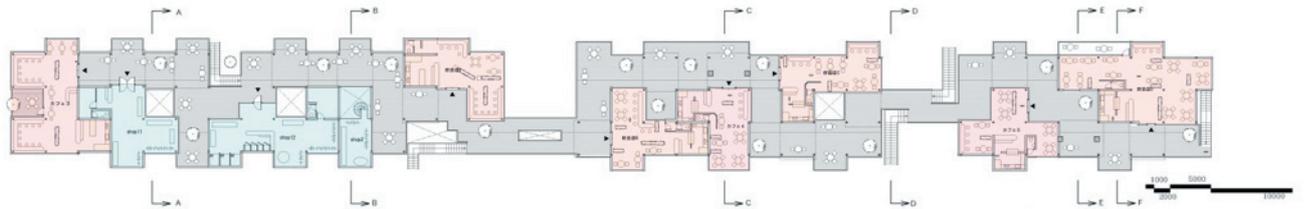
●敷地面積：9665㎡
 SOHOエリア：2246.3㎡
 カフェ・SHOPエリア：2763.2㎡
 コミュニティーパーク：4658.4㎡

●延床面積：5082.7㎡
 SOHOエリア：2886.9㎡
 カフェ・SHOPエリア：2138.6㎡
 コミュニティーパーク：57.2㎡

●建ぺい率：SOHOエリア/47.46%
 カフェ・SHOPエリア/52.86% 【許容：80%】

●容積率：SOHOエリア/128.51%
 カフェ・SHOPエリア/77.48% 【許容：500%】

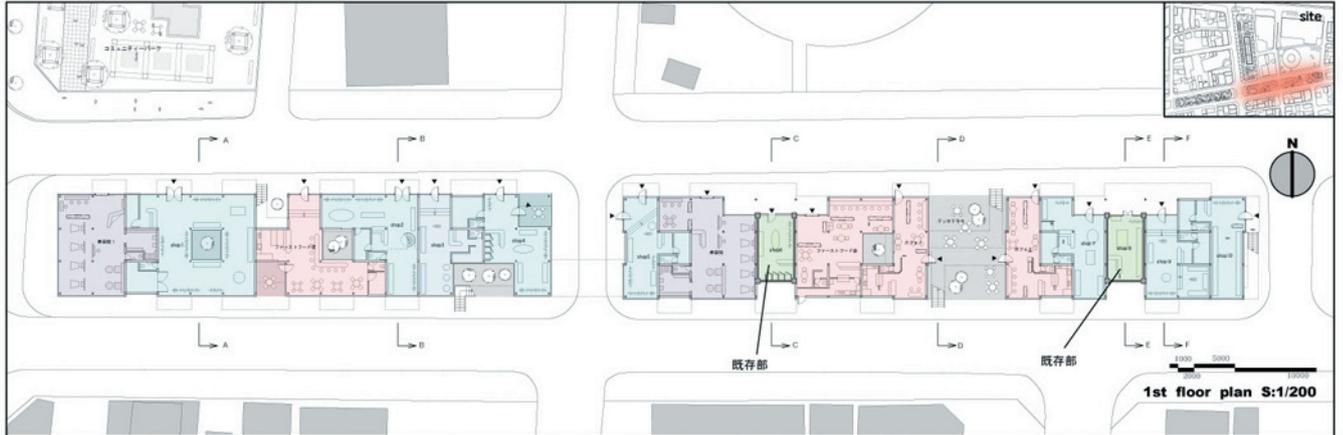
計画敷地



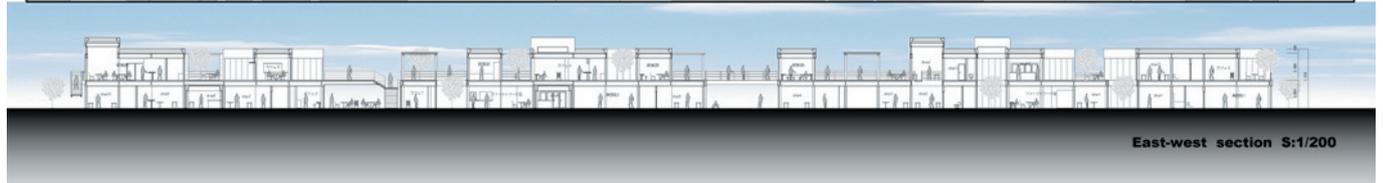
2nd floor plan S:1/200

コミュニティーパークを通り、人々で賑わうSHOP・飲食エリア
建替え計画ではあるが、既存の十分利用可能な価値ある店舗のRC躯体、ファサードは新たな建物内に組み込む。
リニア状の敷地のため、SOHOエリア同様、平面計画がワンパターンになるのを避けるためにスペースブロックの概念を利用した。
建物を高層にするのではなく、2層に抑え、動線が単純になるのを避けるためブロックを抜き、その空いた空間にデッキを敷き、
回遊性をもたせた。

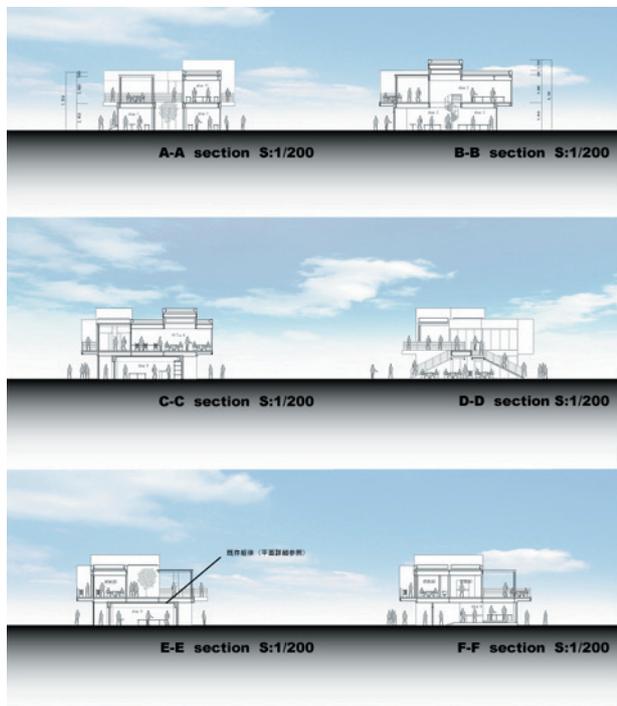
cafe-shop area



1st floor plan S:1/200



East-west section S:1/200



現状の、全面一階の商店街形式ファサードでは訪れた客は、入店することにより感じの良さを享受するだけである。
プランにおいても従来の商店街に多く見られる同じ半高形式では設計、施工の効率は確かに良いが画一的で変化が無く魅力的とは言えない。
それを解決するためにSOHOエリア同様、スペースブロックの考えを用い、空間にさまざまな変化を与えた。
1Fにおいては内部空間にも与える影響が大きい。2Fは外部空間の変化にも与える影響が大きい。ブロックの挿れた空間はそのまま外部通路となり屋外空間を作る。画一的な空間ではないので、ただの歩行空間だが人々の回遊性が向上する。
左図は既存のRC躯体を利用した際のディテール。RCの躯体にケミカルアンカーを打ち、角形鋼管とRC躯体とを一体化させる。

migration

Detailed plan (shop8) S:1/25



North elevation S:1/200



本来ならニアな形状の敷地に対しては住戸数や効率性重視の魅力のない、同一な平面計画になりがちである。
敷地の形状から建物の形態は限られ、それと同時に平面計画も限定される。そこでスペースブロックの概念を用いて、内部空間に変化を持たせ、多様性のある、魅力的空間が生まれることを目指した。

SOHO area

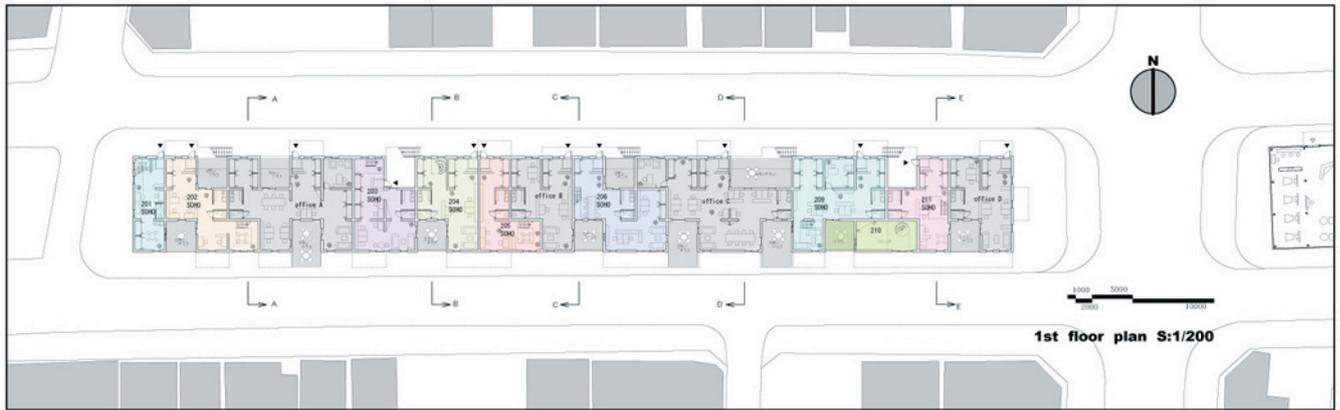
3rd floor plan S:1/200



1000 5000 10000



2nd floor plan S:1/200



1st floor plan S:1/200



A-A section S:1/200

B-B section S:1/200

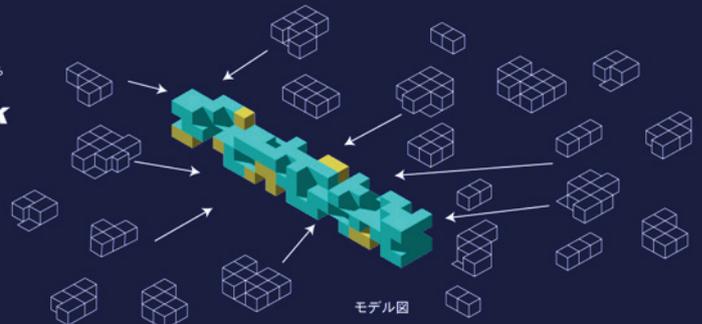
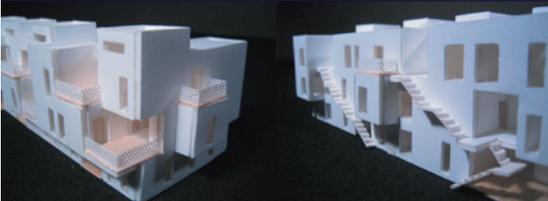
C-C section S:1/200

D-D section S:1/200

E-E section S:1/200

スペースブロックの平面形状は3.85m x 3.85m、高さ3.4m、これがブロック1つの単位。
これはRCの壁厚を25cmとした場合に内法が和室の寸法の900モジュールの3600cmとなることから決定された。
このブロック一つからさまざまなバリエーションの内部空間が生まれる。
設計上最も配慮した点は、上下階の水廻りを通すということである。画一にならないようにブロックを半分ずらしたり、ブロックを抜いてvoidを空けて、ファサードに変化をもたせた。

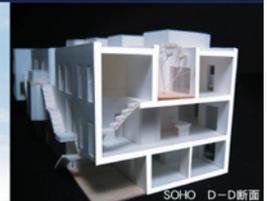
spaceblock



モデル図



South elevation S:1/200



SOHO D-D断面

